

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第52回

森の彫刻家 上床利秋

## 生き残って、紅一点

天降川は靈騷あらたかで魅力的な川である。大きな岩がひしめき合っており、その間を縫うように川が流れており、しかもところどころに温泉が湧き出ている。いかにも『日本的』な自然の風景が残っている。時の移ろいを全身で感じることで癒しを求めて時々私は車を走らせる。最近川の中は坂本龍馬の時代と違い、様変わりしていることに気が付いた。

人工的に施工されてきた堰のよみには体長50センチはあるだろう魚がじつと浮かんでいるのだ。しかもその数が20匹を超えている。黒鯉もいるがそうでない外来種っぽいものもいる。自宅で調べてみると、どうもティラピアという魚に似ている。本来魚は同種で群れると思っていたが、黒鯉ティラピア両種の区別のない集団で、ぼーっとして浮かんでいる。近くに温泉の使用済湯が大量に捨てられているのでどうやらその周辺で生きている。その姿は人が温泉に浸かっている姿のようだ。温泉旅館の社長によると、昔行政が鯉を放流したことがあり、それが大きく育ったようである。ティラピアは南国の魚らしいが、温泉のおかげでこれもまた生き残れたのだろう。人も魚も争いごとなくそれぞれで仲良く温泉を楽しんでいるのは霧島自慢話

になっていい。

二月のある日、その川に住む魚集団の中に30センチを超える錦鯉が泳いでいた。これはどうしたものかと、そこに来るたびにその紅一点が元気でいることを確かめるのが習慣になっていた。たまたまゴミステーションでお会いした近所のおばちゃんにその話をしたところ、自宅の池で死んだと思つて錦鯉を川に捨てたそうである。もしそれがその時の錦鯉ならば、温泉で蘇ったことになる。魚を捨てた時期と、私が見つけた錦鯉の時期は一致しているのも興

味深い。凍てついた池の中、錦鯉は仮死状態になっていたのかもしれない。

今では紅一点が黒い魚の集団の中で仲良く元気に泳いでいる。

生態系を考えると、人間が鑑賞の為に鯉を放流するのは良いことではない。その為に川エビや小魚、ヤゴなどの姿を見



天降川のティラピア  
縦じま模様が特徴。鯉に比べて背びれや腹びれが長い。原生地はアフリカ。



使用済温泉の元で大きく育った魚たち

### レモン画材絵画教室 ご案内

- 隔週水曜日 10:00~ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00~ 油絵・水彩 教室
- 隔週日曜日 16:00~ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00~ 子供絵画教室  
②13:30~
- 月1回 第2火曜 10:00~ 和紙ちぎり絵教室



お申し込みはTEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで

ホームページ刷新しました。  
<https://douzou.jp/>  
上床利秋 検索



この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか

日展会員 白日会会員 日本彫刻会正会員

かけることが少なくなるからだ。でも今生きている魚に罪があるだろうか。やがて錦鯉の子供と思われる幼魚が泳ぐ姿を思い浮かべるのは楽しい。

それにしても鯉も恋する霧島の温泉は畏るべし。治すのは人の病気だけではない。